

昭和十四年六月三十日
 ドロト湖西南方地區戰圖詳報

(所要地圖)

十萬分ノ一ハミダガイノ
 軍及附圖第六圖

第一戰圖前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

(一) 敵情

1 全般ノ敵情

諸偵察ノ結果六月二十日頃以來ノモンハン西南方ハルハ河兩岸地區
 ニ進出セシ敵兵力ハ二師團ヲ下ラサルモノノ如ク數線ニ陣地ヲ設備
 シ特ニハルハ河右岸ニ於テハ堅固ナル三線ノ陣地ヲ構築シアリ其ノ
 配備ノ兵力ノ行動ノ概要等別紙要圖第一ノ如シ
 8 支隊當面ノ敵情

六月二十九日諸斥候並配屬飛行機ノ偵察ニ依レハハミダガイ西南方
 ハルハ河右岸ニ進出セル敵ハ二十八日夜以來逐次撤退セルモノノ如
 ク「タマダ」「ヨシマル」兩地區方面ニ於ケル敵ノ行動亦積極的ナ

(三)

我軍ノ情況

ラス時ニ全般的ニハルハ河左岸ニ移動スル軍頗多勢アルモノノ如ク
當時ニ於ケル敵情別紙要圖第二ノ如シ

1 全般ノ情況

第二十三師團主力ハ六月二十日過以來逐次其兵力ヲ甘珠爾廟、將軍廟附近ニ集結シ爾後ノ戰鬪ヲ準備中ニシテ其先遣隊ハ同月二十四日將軍廟附近ニ於テ機甲部隊ヲ伴フ有力ナル敵ト少戰多クノ損害ヲ與ヘテ之ヲ擊退セリ

2 安岡支隊ノ狀況

六月二十二日以來逐次阿爾山下軍、二十四日以降其主力ヲハンダガイ附近ニ集結シ爾後ノ戰鬪ヲ準備中ノリシ安岡支隊ハ六月三十日主力ヲ以テ「ヨシマル」地區ニ躍進シ企圖ス

3 戰軍第四聯隊ノ狀況

聯隊ハ依然支隊主力ト共ニハンダガイニアリテ爾後ノ戰鬪ヲ準備中

ニシテ六月二十九日ニ於ケル態勢ノ概要別紙要圖第三ノ如シ
 六月二十九日十八時明三十日支隊ノ「ヨシマル」地區ヘノ躍進並當
 隊ハ第一梯團トシテ明九時「ヨシマル」西南方地區ニ前進スヘキ左
 記支隊命令ヲ受領ス

零支作命甲第十三號

安岡支隊命令

六月二十九日十八時
 於ヘンダガイ

一、小松原部隊ハ逐次甘珠爾廟、將軍廟ニ集結シツツアリ

二、支隊ハ明三十日主力ヲ以テ「ヨシマル」地區西南方地區集結地

ニ躍進セントス

三、興安支隊ノ一部ハ支隊ニ連繫シ「タマダ」地區東方高地ニ進出

スル筈

四、工兵隊ハ明早朝出發ヘンダガイ、「ヨシマル」地區間ノ道路補

修ニ任シタル後ドロト湖西南部ニ前進スヘシ

五、根川大隊（一小隊缺輕戰車一中隊ヲ一時配屬ス）ハ二時現在地
 出發捷路ヲ經テ西部高地（ 962 ）
 南方地區及同地東南地區ノ敵情地形ヲ搜索スヘシ
 六、第一梯團（戰四（一中缺）給水班）ハ九時農場ヲ出發「ヨシマル」
 「地區西南部ニ向ヒ前進スヘシ」
 「ヨシマル」地區到着後玉田部隊ハ給水班ノ作業ヲ一部ヲ以テ
 援護スヘシ
 戰四ハ一中隊ヲ明根川大隊ニ配屬スヘシ
 七、第二梯團「戰三一中、支隊司令部、戰三（一中缺）、獨砲一、
 高射砲中隊、無線小隊、衛生隊（本部ト一部）、山砲一」ハ十
 一時農場ヲ先頭トシ行軍序列ニ從ヒ本道上ニ集合スヘシ
 八、各隊ハ明三十日ノ機動ノ爲自動貨車ヲ別表ノ如ク配屬スヘシ
 九、各隊「ヨシマル」地區偵察者ハ第一梯團長ノ區署ヲ受ケ之ト同
 行スヘシ

別表

計	衛生隊	工兵隊	堀川部隊	被配屬部隊
				配屬部隊
八			八	戦三
一二			一二	戦四
一一	一	一〇		湯桶
二		二		高射砲中隊
三三	一	一二	五〇	計

一〇予、第二梯団ト共ニ前進ス

支隊長 安岡中將

下達法 命令受領者ニ口達後印刷配布

戦隊長ハ右命令ヲ受領スルヤ左記命令（玉戦作命第二五、第二六號）

ニ下達ス

玉璽作命第二十五號

第一梯團命令

六月二十九日二十時
於ヘンダガイ

一敵狀情報記録第五六ノ如シ

支隊ハ明三十日主力ヲ以テ「ヨシマル」地區西南方地區集結地

ニ躍進ス

興安師ノ一部ハ支隊ニ連繫シ「タマダ」地區東方高地ニ進出ス

ル等

梶川大隊（一小缺）輕戰車一中ヲ一時配屬（ハ明早朝現在進出

發西部△952高地x535.2ノ線ニ進出シ「タマダ」東方地區及同地區

南方地區ノ筋狀地形ヲ搜索スル等

二第一梯團（玉田部隊（一中缺）給水班）ハ明三十日九時ヘンダ

ガイ農場ヲ出發「ヨシマル」地區西南方地區ニ向ヒ前進セントス

三各隊設營者及給水班ハ明三十日八時迄ニハンダガイ橋北方四百

米本道右側ニ集合スヘシ

前進ノ爲ノ行軍位置次ノ如シ

各隊設營者

尖兵中隊ノ後方

給水班

玉田部隊ノ前方

四予ハ玉田部隊ト共ニ明三十日八時宿營地出發爾後第一梯團ノ先

頭ヲ前進ス

第一梯團長

玉田大佐

下達法 口達筆記セシム

玉田作命第二十六號

玉田戰軍部隊命令

六月二十九日二十一時
於ハンダガイ

一敵情及友軍ノ情況玉田作命第二十五號ノ如シ

二部隊ハ第一梯團トナリ明三十日八時現在地出發「ヨシマル」地

區西南方地區ニ向ヒ前進セントス

三 松本隊ハ一時梶川部隊ニ配屬ス

細部ニ關シテハ梶川部隊長ノ指示ヲ受クヘシ

四 各隊（松本隊缺）ハ明三十日七時五十分迄ニ出發準備ヲ完了シ

高橋大尉ノ指示ニ依リ行軍序列ニ入ルヘシ

行軍序列次ノ如シ

尖兵中隊、北村隊（本部ノ前方二軒）

本 部隊 部隊本部

玉木隊

因 隊

給水班

神山隊

五 神山隊ハ貨車十二輛ヲ明三十日四時迄ニ梶川部隊ニ差出スヘシ
之ヲ爲殘置貨物ハ該貨車歸還後積載シ集結地ニ追及スヘシ但シ

該貨軍隊還迄一部ヲ殘置シ警戒ニ任セシムヘシ

六高橋大尉ハ明早朝出發交通整理並ニヨシマル一地區ニ於ケル經

險設營ニ任スヘシ貨軍一歩附ス

セ各隊ハ晝夕食ヲ携行スヘシ

八予ハ明三十日八時現在地出發爾後第一梯團ノ先頭ニ在リテ前進
ス

部隊長 玉田大佐

下達法 口達筆記セシム

聯隊ハ同夜右ノ命令ノ如ク出發準備中二十三時頃ニ至リ突如左記安

岡支隊命令ヲ受領ス

安支作命甲第十四號

安岡支隊命令

六月二十九日二十三時〇分
於ハシンダガイ

一敵兵退却ノ兆アリ

二 支隊の直ニ「タマダ」地區ニ向ヒ急進セシム
 興安支隊ハ「タマダ」地區北方高地ニ進出シ支隊ノ右側ヲ掩護
 三 工兵隊ハ直ニ道路補修ニ任スヘシニ
 四 第一梯團「戰四」(一中隊殘置)獨砲一ノ「一中」ハ三十日一時三
 十分農場出發「タマダ」地區ニ向ヒ急進スヘシ
 五 第二梯團「同行軍序列」戰三(半部殘置)支隊本部、無線小隊
 獨砲一(一中缺)、給水班、衛生隊(本部ト一部)ハ三十日
 三時三十分義梁ヲ先頭ニ道路兩側ニヒ集合スヘシ
 六 各戰軍隊及無線小隊ハ特務機關情報隊員若干名ノ輸送及給養ヲ
 擔任スヘシ情報隊員ヲシテ連絡セシム
 七 龍川大隊(一小隊缺)ハ四時三十分現在地出發道路ヲ經テ「タマ
 ダ」地區ニ向ヒ急進スヘシ
 八 戰軍隊機置部隊、高射砲隊及車中ハ現在地ニ待機スヘシ機置部

隊指揮官ハ高射砲隊長トス

九吉丸砲隊ヨリ將校斥候ハ組ヲ速ニ出發セシメ「タマダ」地區附近ノ敵情ヲ其退路企圖及「マス」附近ニ於ケルハルハ河渡河點ノ偵察ヲ行フヘシ

十自衛軍ノ差出シ配屬ハ前命令ノ如シ

猶高射砲隊ヨリ司令部ニ自動貨車「二輛」ヲ差出スヘシ

十一予ハ三時三十分現司令部前ニ在リ

同時第二梯團諸隊ハ連絡者ヲ同所ニ差出スヘシ

支 隊 長 安 岡 中 將

下達法 要旨ヲ電話口達筆記セシタル後印刷配布

右命令ヲ受領スルヤ聯隊長ハ二十三時三十分更ニ左ノ如キ第一梯團命令ヲ下達シ直ニ「タマダ」地區ニ向フ前進ヲ準備セシカ當時因隊ハ「ガソリン」ノ補給十分ナラス「タマダ」地區ニ前進スルニ不足ノ爲又聯隊段列ハ安支作命甲第十三號ニヨリ依然歩兵大隊輸送用ト

シテ貨車十二輛ヲ之ニ配屬セル爲多量ノ荷物（増加携行セル戰車砲彈藥ヲ含ム）ト共ニ一時ハシダガイニ殘留セサルヲ得サル狀態ナリ

玉戰作命第二十七號

第一梯團命令

於六月二十九日二十三時三十分

一敵兵退却ノ兆アリ

支隊ハ直ニ「タマダ」地區ニ向ヒ前進ス

興安支隊ハ「タマダ」地區ノ北方地區ニ進出シ右側ヲ警戒スル

筈

二第一梯團ハ明三十日一時三十分農場出發攻撃ノ目的ヲ以テ「タ

マダ」地區ニ向ヒ前進セントス

三各隊ハ零時三十分迄ニ出發準備ヲ完了シ連絡者ヲ本部ノ位置ニ

出スヘシ

四第一梯團ノ行軍序列左ノ如シ

尖兵中隊

北村隊（本部ノ前方二料）

本 隊 (同行軍序列)

本 部

松 本 隊

玉 木 隊

玉 木 隊

先進修理小隊

尖兵中隊ハ進路ノ標示ヲナスヘシ

五 因隊ハ現在地^ニ殘留シ高射砲隊長ノ指揮ヲ受クヘシ

但シ貨車一(會操總手助手)ヲ本部ニ差出スヘシ

六 神山隊(除先進修理小隊)ハ現在地ニ殘留シ梶川部隊差出貨車

歸還後追及スヘシ

七 前進間無線ハ之ヲ封止ス(除三號無線)

八 三號無線及宣撫班ハ本部ト共ニ行動スヘシ

九 予ハ本部ノ位置ニ在リ爾後本隊ヲ先頭ヲ前進ス

第二 戰 團 經 過

下達法 口達筆記セシム
第一梯團長 玉田 大佐

(一)

聯隊ハ六月三十日零時三十分玉戰作命第二十七號ノ命令ニ基キ其宿營地ヲ撤收一時三十分ハンダガイ農場東端出發北村隊ヲ尖兵中隊トシ本隊ノ前方約二軒ヲ^{△893}高地ニ向ヒ前進セシメ爾餘ハ之ニ續行シ因隊及神山隊ハ前項末尾ノ如ク夫々部署ニ就ケリ

然ルニ梯團主力ハ予メ工兵ニ依リ補修セラレタル農場ヨリハンダガイ峠ニ至ル間ニ駐在スル濕地カ先行軍輜ノ連續通過ニヨリ逐次通過困難トナレルニ會シ加フルニ暗夜濃霧ノタメ行進甚シク遲滞セシカ工兵隊ノ協力ト自隊ノ作業並進路ノ變更等ニ依リ行進ヲ續行九時十五分其先頭ヲ以テハンダガイ峠西北方約七軒ノ地點^{△893}（^{Y74}）ニ達ス

先是尖兵中隊ハ前記本部ノ行進遲滞ニ關セス依然豫定ノ前進目標タル⁸⁹³高地ニ向ヒ急進セシ爲同隊トノ離隔大トナリシヲ以テ本部ノ後方ニ